

学生たちの提案

「見世蔵小日野屋商店再活用の提案」は、11月23日栃木県立博物館において、小林先生の研究発表とともに学生の皆さんが発表を行いました。



小山高専 安高研究室 テーマ「泊・食・学」 —徳次郎のニワとなる町屋—



歴史ある建造物と庭を活かし、泊まって、食べて、学べる交流の場とする
—見世蔵を販売と交流の場とする
—倉庫は撤去して駐車場とする。
—納屋はカフェとし離れは宿泊施設とする
—奥の石蔵はギャラリーとする
—中心となるニワは交流と賑わいの場となる

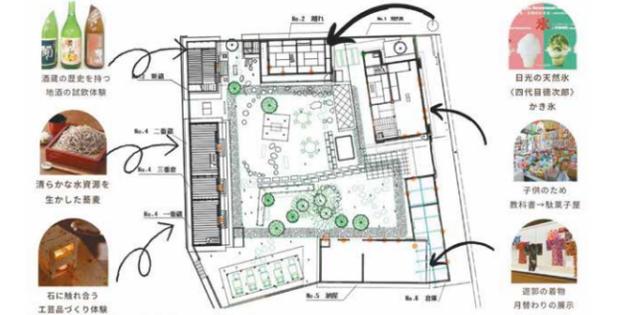
宇都宮大学 遠藤研究室 テーマ「地域の日常と来訪者をつなぐ、かかわりの拠点」 —旧日光街道と徳次郎宿における石文化と空間形成の継承—



日光街道を走るサイクリストのための休憩施設とする
—日光街道に面した倉庫を無くして駐輪スペース。納屋をサイクルステーションとする

周辺農家で生産される果実の加工販売を行う
—奥の石蔵を改造して果実飲料の加工場とする
観光案内、休憩、小日野屋商店の歴史展示も行う
—新蔵は観光案内所、離れは休憩及び地域住民の憩いの場、見世蔵は果実飲料を販売するカフェとし、2階は小日野屋商店の歴史展示を行う。中庭はフリーマーケットの会場となる

小山高専 小林研究室 テーマ「回廊で巡る小日野屋」



宇都宮の新たな観光スポットとして石蔵回遊庭園を提案する
石蔵の歴史的・景観的価値を活かした非日常の癒しの空間
—見世蔵を子供たちのための駄菓子屋とする
—倉庫と納屋を一体化して徳次郎宿の歴史展示を行う
—離れでは庭を見ながらかき氷を食べる
—奥の石蔵は石の工芸体験や蕎麦屋、日本酒の試飲の場として利用する

写真集「大谷石未来へ」の建物を巡るバスツアー(古河・野木方面)

NPO法人大谷石研究会 佐藤 哲哉
(渡辺有規建築企画事務所)

今回初めてバスツアーに参加し、古い街並みや素材を生かした建物を見学することができました。研究会の皆様と貴重な時間を過ごすことができ、気持ちや発見の多い、有意義な旅となりました。

最初に到着したのは古河歴史博物館です。古河城の諏訪曲輪(出城)跡地に建てられており、隣接する文学館や鷹見泉石記念館などの周辺施設と共に、自然と建物の一体感を創り出していました。大谷石と漆喰が作り出す空間が印象的で、時代やまちの雰囲気を感じられました。一方で、1990年代当時「まちの記憶に寄り添う建築」として誕生した建物が、現在もその空気感を纏っていることに感動を覚えました。初めて訪れた場所ですが、どこか懐かしさ、落ち着きがあり、時の流れが緩やかになった

ような感覚に包まれました。これは風化しやすい大谷石や光を柔らかく反射する漆喰の「素材」が作り出す深みや温かさなのかもしれません。坂長周辺の昼食を終え、次に向かったのは青木酒造です。看板をくぐると木造の大きな建物が見えてきます。外観では木造の蔵しかないように見えますが、中に入ると大谷石の蔵が姿を表し驚きました。酒蔵のファサードには赤煉瓦が使われており、その煉瓦の赤色と大谷石の灰白色の対比が美しいと感じました。酒蔵の主人ともお話しすることができ、丁寧に手入れされている様子からも築100年以上が経過している素晴らしい蔵だと分かりました。蔵に使われている大谷石をよく見ると、手彫り時代のノミの跡がありました。時間と手間をかけた痕跡が力強く、大谷石の味わい深い



魅力をより引き出していました。篆刻美術館など周辺の散策でも大谷石の奥深さを感じました。

最後に、野木町煉瓦窯に向かいました。野木町煉瓦窯は正六角形の外觀と長い煙突が印象的なホフマン式と呼ばれる形式の釜で、国内に現存する同型の釜の中で最古のもので、現在日本に残っている釜は4つであり、そのひとつです。先ほどの青木酒造で用いられていた赤煉瓦がここで生産された物か不明とのことでしたが、時代的なつながりや地理的なつながりを感じ、感慨深い気持ちになりました。

野木町煉瓦窯は関東大震災による倒壊や、その後のコンクリート工法の台頭改修の急減による休止を経つも、現在まで保存活動が行われています。

かつての近代日本産業の発展に貢献してきた、文化的にも歴史的にも価値のある大谷石の建築物や煉瓦を見学する機会に恵まれ、大変嬉しく思います。



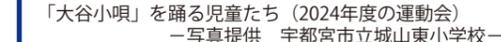
かつての近代日本産業の発展に貢献してきた、文化的にも歴史的にも価値のある大谷石の建築物や煉瓦を見学する機会に恵まれ、大変嬉しく思います。

会員通信

すげーぞ!大谷

「大谷小唄(おあやこうた)」
宇都宮市立城山東小学校の巻
NPO法人大谷石研究会 広報担当 佐藤光弘
(栃木県立博物館)

「大谷小唄」は、「石のまち」大谷を代表する当地ソング。昭和33年(1958)、宇都宮ヘルスセンター(大谷ヘルスセンター・ローマタワー)の落成式で、ローマ風呂が売りの温泉施設「オーブ」を記念して、翌年つくられた歌です。歌詞を一般から募集してつくられ、この時「宇都宮ヘルスセンター」音頭もつくれました。宇都宮市立城山東小学校は、昭和31年(1956)、同城山中央小学校から分かれて、「石のまち」に誕生しました。同校では、「この当地ソングを大切に受け継ぎ、踊りの練習にもいそしみます。毎年10月の運動会では、児童ばかりでなく保護者卒業生が心をひとつにして「大谷小唄」を歌い、そして踊



「大谷小唄」を踊る児童たち(2024年度の運動会) —写真提供 宇都宮市立城山東小学校—

大谷小唄 作曲:古岡裕而 歌:鳥倉千代子
ハー 石のナアートコサ 石の山の観音様よ 朝日とけこも恵みをたれて ソーレ 大谷は花の山
ヨイトコ ヨイトコの山
ハー 避暑のナアートコサ 避暑のあけくれの山路 石切る音もこだまして ソーレ 大谷は金の街
ヨイトコ ヨイトコ金の街
ハー おとめナアートコサ おとめ山にも紅葉が燃えりや 町の娘も身をこがす ソーレ 大谷は湯もござる
ヨイトコ ヨイトコ湯もござる
ハー 宿のナアートコサ 宿の灯りが小雪の窓に うつる多気山古賀志山 ソーレ 大谷は石の山
ヨイトコ ヨイトコ石の山
ハー 松のナアートコサ 松のみどりにも色香を添えて 咲いたスズランをまつ ソーレ 大谷は宝山
ヨイトコ ヨイトコ宝山

多忙な中、地元大谷の学習を大切にしてくださる先生方に感謝いたします。児童たちには、そんな先生方に感謝の心を持ち、地元の人たちの交流を大切にしつつ、温かい心をもつて前に進んでいって欲しいと思います。学校の取材にもご協力ください。ありがとうございます。

大谷石研究会「栃木県立博物館連続講演会」

1月10日(土)13時30分～「世界の石の建築について」
東京科学大学環境・社会理工学院建築学系教授 安森亮雄
2月7日(土)10時30分～「農業用倉庫再利用案について」
宇都宮大学都市デザイン科学部准教授 遠藤康一

写真集「大谷石 未来へ」
NPO法人 大谷石研究会
2,500円(税込) 113頁

大谷石 東西南北

石の文化 伊豆半島にも 伊豆石利用の古民家 カフェで再生

NPO法人 大谷石研究会 広報担当 平沼 隆志

幕末の日本に開国を迫った米国ペリー提督ゆかりの伊豆・下田のペリーロード。蔵や古民家などを利用した趣のある建物が並ぶ。そこで大谷石造りのような石壁の古民家カフェに出合った。特有のミンがないものの、温かみのある雰囲気は大谷石を思い浮かべさせる。隣は石蔵のようだ。休業日のようで店の人の話を聞けなかったが、大谷石の「兄弟」に出合えてうれしかった。後日ネットで調べると、伊豆半島で古くから産出されている伊豆石建造物の再生利用。伊豆石は多様な石材の総称で、用途も消費地も幅広い。産地と消費地を伊豆石文化圏としてとらえて探求し、情報発信している民間グループ、伊豆石文化探究会もあった。石の文化を愛する人々がここにもいた。